

平成28年度 松川町三二議会会議録

会 期 平成28年11月24日



松 川 町

会 議 録

平成28年度松川町ミニ議会会議録				
召集年月日	平成28年11月24日			
召集の場所	松川町議会議場			
開 議	11月24日 午前9時30分			
出席議員	1番	<small>かたぎり みさき</small> 片桐 美咲 北小6年	3番 <small>いわもと みずき</small> 岩本 水樹 <small>さくらい おう</small> 櫻井 旺 中央小6年2組	
	2番	<small>いとう たくま</small> 伊藤 拓真 <small>いわもと きよし</small> 岩本 聖 中央小6年1組	4番 <small>はしば かすみ</small> 橋場 郁遥 <small>さとう ひびき</small> 佐藤 響己 中央小6年3組	
	中央小 6年1組 33名		中央小 6年3組 34名	
	中央小 6年2組 34名		北 小 6年 21名	
	総数129名（1～4番議員を含む）			
議 長	町 議 会 議 長 関 克 義			
説明のため出席した者の職・氏名	町 長	深 津 徹	保健福祉課長 米山政則	
	副 町 長	吉 澤 澄 久	産業観光課長 田中 学	
	教 育 長	高 坂 敏 昭	環境水道課長 下沢克裕	
	会 計 管 理 者	塩 倉 智 文	建 設 課 長 小 沢 雅 和	
	総 務 課 長	塩 倉 智 文	こ ども 課 長 福 島 敏 美	
	まちづくり政策課長	酒 井 仁	生涯学習課長 小木曾雅彦	
	住民税務課長	北 村 稔	議会事務局長 加山隆浩	
職務のため出席した者の職・氏名	議会事務局長	加山隆浩	書 記 佐藤 愛	

一般質問の質問事項

平成28年11月24日

順序	発言通告者	質問事項	頁
1	片桐美咲	○これからの松川町に願うこと ～友だちと気楽に行くことができる後援などの施設 作りを～	5
2	伊藤拓真 岩本聖	○食べるほお好きの栽培と販売について	11
3	岩本水樹 櫻井旺	○教室へのエアコンの設置について	15
4	橋場郁遥 佐藤響己	○私達が参加することのできる町づくりについて	18

開議宣告

○議長（関 克義） 雪の中、ごくろうさまでございます。

定刻となりましたので、ただいまから平成28年松川町ミニ議会を開会いたします。

議事日程の報告

○議長（関 克義） 本日の議事日程につきましては、お手元に配布のとおり一般質問であります。

本日の会議に説明者として、理事者、各課長、局長の出席を求めています。

町議会議員が参加をしております。

株式会社チャンネル・ユーの有線テレビ生中継の許可をしてあります。

=== 日程第1 町長あいさつ ===

○議長（関 克義） 日程第1、町長あいさつであります。

深津町長、お願いします。

○町長（深津 徹） おはようございます。

すごい雪が降りました。まだ降っております。11月のこの時期としては、この地方にとりましても大雪ではないかというふうに思っております。

みなさん、それぞれ学校へ通学するには、本当に足下が悪くて大変じゃなかったかなとそんな気がする次第でございます。

また、雪が早く解けてほしいなというふうに思っております。何故かと言いますと、今、松川町は、くだもの里まつかわとして一番多くの皆さんが訪れる季節でございます。りんごが赤く色づいて、そして、多くの皆さんが来て欲しいなあと待っている時期でございます。週末ともなると県外の多くの皆さんたちが、くだもの狩りに訪れてくれます。そうした中で、先週も行われましたけれども、地域の皆さんが、来てくれた人達を暖かくお迎えしたいということでそば祭りをやったり、今度12月の最初の日曜日にはふじ祭りという、りんごのふじ祭りをしたりして来てくれた人達に喜んでもらうように様々なイベントが組まれております。多くの皆さんが訪れて欲しいなとそんな気がする次第でございます。

本日は、小学校、北小学校、中央小学校それぞれの6年生の皆さんのミニ議会ということで、皆さま方からのご意見や質問や提案をいただく機会を設けていただきました。

毎年のことではありますけれども、6年生の皆さんがこうして議場に集まっていたいて、そして、様々な行政に対しましてご意見をいただくこと、本当に嬉しく思っておりますし、しっかりと私達も受け止めてまいりたいというふうに思っております。感謝を申し上げます。

今日、こうして議場に集まっていただきました。松川町は、住民の皆さんから多くの税金をいただいて、そしてまた、国や県からの交付金、補助金等をいただいて、松川町の皆さんたちが、住んで良かったなと思える町をどうしていくかということを進めているわけでありまして、皆さん、今日お集まりいただいて座っている場所が、松川町の議会の行われる議場であります。今日は議会の皆さんも、議員の皆さんも出席をいただいておりますけれども、ここで、松川町の執行側、役場の課長さんやみんなが計画をした、今年度、今年1年間、こういう事業を行います、こういったことをやっていきますということで、ここで審議をいただきます。議会の皆さんにいろんなご意見や提案をいただく中で、決定した内容を1年間を通じて、様々な事業を行っていくという、非常に重要な場所に皆さんお座りをいただいております。

今日は、ミニ議会ということでございますので、皆さん方も議員ということで、私も答弁をしてまいりたいというふうに思っております。

松川町でありますけれども、平成28年度スタートして半分以上が過ぎたわけでございます。今年、町政施行60周年という年でございました。60周年の記念式典を10月の29日に新しくできました「中央公民館えみりあ」でありますけれどもそこで行ったところでございます。昭和31年に上片桐村と大島村が合併をして、昭和34年に生田村も一緒になって合併をして、そして山吹村の一部を一緒になりまして松川町がスタートをいたしてから60年ということでございます。

今まで、皆さんのお爺ちゃんやお婆ちゃんたちが、この松川町を何とか一生懸命して、松川町を発展させていこうというふうに努力をしてきてくれました。そして、今の松川町があります。これから私達、そして今お座りの皆さんたちが、これからあらためて10年後20年後50年後100年後を松川町をまた次の世代の皆さんに残していくべく皆さんと一緒に松川町を作っていかなければならないということを痛感をいたしております。

それからもう1つは、28年度には、行政には、こういう自治体には、総合計画というのがあります。第5次の総合計画のスタートする年でありました。2年間にわたって計画を地域の皆さん、議会の皆さんたちと相談する中で決めてまいりました。そして、松

川町の総合計画では、松川町の町の目指す将来の姿を是非覚えておっていただきたいというふうに思いますけれども、「いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ」これを総合計画の最上位に掲げております。28年度のスタートでありますけれども、今の言ったこの目標に向かって様々な計画を立て実行をしていきたいというふうに思っている次第でございます。

本日、皆さん方から様々な提案やご質問を受けてまいります。また、お答えをさせていただきますので、是非ともまたみなさんも素晴らしい提案や考えを述べていただきたいというふうに思っております。

最後になりましたけれども、皆さん方は小学校の6年生として下級生の皆さんを面倒を見、また助け合い、そしてそれぞれの学校をもりあげておっていただきます。このことに関しましては、本当に感謝を申し上げます。そうした皆さんの姿が、この松川町の私達を勇気づけて元気づけてくれているということも申し添えまして、私の冒頭のあいさつといたします。

よろしく願いいたします。

=== 日程第2 一般質問 ===

○議長（関 克義） 日程第2、一般質問であります。

一般質問は、7名のミニ議員より通告をされております。先に決定した順序により、順次発言をお願いいたします。

ただいまから一般質問を行います。

◇ 片 桐 美 咲 ◇

○議長（関 克義） 1番、松川北小学校6年、片桐美咲議員。

○1番（片桐美咲） 「これからの松川町に願うこと～友だちと気軽に行ける公園などの施設づくりを～」松川北小学校6年の片桐美咲です。

私たちは、町政60周年を迎えた松川町に願う10年後の姿について全校をあげて考えてみました。その結果を棒グラフにまとめてみました。

第1位は、豊かな自然が守られている



町でした。第2位は、公園やお店などの様々な施設が充実している町でした。第3位は、他県や外国からの観光客が来る町、そのほかには、福祉施設が充実している町、犯罪のない平和な町などたくさんの願う姿が上げられました。

今日は、その中から学校の代表として、これから松川町がもっと住みよい町になるように、こんなふうになって欲しいと思うことについて提案させていただきます。

1つ目は、高齢化社会に向けて、子どもの人口が増えるように魅力ある町づくりを進めていただくことです。

2つ目は、くだものの町として、ちがう県や国からの観光客がもっと増え、今以上に自然豊かな明るい町になって欲しいと思います。

3つ目は、土地開発により森林が亡くなり、私の家から見てもだんだんと緑の見える範囲が狭くなってきています。木々が育ち、季節それぞれのきれいな景色が見えるようになることです。

4つ目は、お年寄りの方々の認知症を手助けする専門施設ができてほしいということです。ご本人やその家族の方々が安心して生活できる温かい町になってほしいです。

5つ目は、今、私達が一番松川町にお願いしたいと思っていることです。公園、プールなど、大人も子どもも楽しめる場所がもっとできてほしいです。何故なら、現在、家の近くにある公園、プールなどは2箇所ほどしかなく、しかも、気軽に遊びに行けるような場所にはありません。家族や友だち同士で気軽に遊びに行かれ、小さい子どもも安心して遊べる施設ができてほしいです。



私達6年が、松川町に作っていただきたい公園をイメージして絵に表してみましたのでごらんください。

雨の日でも遊ぶことのできる、屋根があるコーナー。夏になると蛍が舞う小川。野菜を育てることのできる畑。考えているうちに楽しくなってきました。少し現実離れしたアイデアも書いてしまいましたが、松川町が今以上に住み

よい町になるように提案いたします。

よろしく願いいたします。

○議長（関 克義） 深津町長。お願いします。

○町長（深津 徹） 片桐議員のご質問にお答えをいたしてまいります。

いくつか、5つほど質問をいただいておりますので、順次お答えをいたしてまいります。

まずは、高齢化社会で子どもの人口が増えるように、魅力ある町づくりをしていってほしいということをございました。

まず、人口についてでありますけれども、ご承知のように、今、全国人口減少時代、10年あまり前からだんだんだんだん人口が減ってきております。そして、それに伴って高齢化が進んでいるということをございます。

いくつか、数字を申し上げますので、もし皆さん達、必要だったら控えていってください。

昨年、国勢調査が行われました。松川町の人口が発表になったわけでありましてけれども、松川町の人口は1万3,167人という国勢調査の状況です。

それで、国勢調査っていうのは、全国一斉に5年ごとに人口の調査が行われるわけでありましてけれども、5年前に比べると、松川町は3.7%人口が減っております。

下伊那の人口も減って、全体の人口も減っているわけだけれども、下伊那では、平均では5.5%の減りということで、人口がこういうふう減ってくる。そうした中で、今度は人口が減ってくる中で人口構造、子ども達が何人おるか、それから生産年齢人口、30代40代の人達がどのくらいおるか、65歳以上の老人の老齢人口がどのくらいあるかという統計を取ると、やはり、今、片桐議員の指摘したように子どもの数が減って、お年寄りの数が増えているという人口構造になっております。

そうした中で、子ども達を是非人口が増えるようにということでありましたけれども、松川町でも、人口がどんだん減っていつちやうことを少しでもこう、なだらかにしていきたいという思いの中で、今、松川町では、出会い、男女の出会い、結婚、それから出産、子どもが生まれる、それから子育て、まさに皆さんたちの世代、子ども達の世代の支援、それから仕事場、それから住むところ、これらの6つのそれぞれの政策を、みんなそれぞれ関係がありますのでそれを総合的な政策として、推し進めていこうということで、それぞれの分野にわたって、今までもやってきたけれどももっと力を入れてやったり、あるいは新しいことをやったりっていうようなことで、人口が少しでも増

えるようにっていうふうに思っております。

それから、人口を増やしていくには、自然増減、生まれる子供と死んでいく皆さん。それで、こう変わってくるのと、それからもう1つが社会現象、社会動態って言いますけれども、今度は、もう大人の人達が、ああ、松川町に住んでみたいなと思って来てくれる人達、そしてまた、今度は学校を卒業したり仕事の都合で松川町を出て行く人達、この2つの動きをしっかりと見てやっていかなきゃいけないなというふうに思っております。

ですから、それこそ、皆さんたちの小学校6年生、これからまだまだ中学校や高校や、この松川町に住んでいくわけでありましてけれども、みなさんたちが本当に安全で安心な生活の中で、しっかりと勉強できるような体制を作っていくという政策も大事だなというふうに思っております。

それから、次に観光客、他の県や国から観光客が増えて、自然豊かな明るい町になってほしいということでございます。

今、松川町には、清流苑という温泉がありますね。あのへんの松川清流苑、松川高原、あのへん一帯へ来てくれる人達は、27年度、だいたい26万人の人達が来ます。そして、今度はくだもの狩りにだいたい4万人の人達が来てくれます。ですから、合わせて30万人くらいの人達が松川町に観光やくだもの狩りできてくれております。

町では、そういうふうに訪れてくれている人達が、松川町を好きになってほしい。「また来てね」、「また来るよ」、そんな気持ちでそういった人達をお迎えをして、そして、リピーター、来てくれた人達が、「ああ、松川町って良かったな、住民の皆さん達が温かく迎えてくれて、また行ってみたいな、おいしいくだものがあったなあ、地域の人達が温かく挨拶してくれたよ、歓迎してくれたよ」、それで松川町をまた訪れてくる。松川町のファンを作っていきたい。

ですから、観光やいろいろ訪れる。ただ1回来たきりで、もう松川町が忘れ去られちゃうんじゃないかと、「松川町行ってよかった」って、こういうふう感じてもらえるように、みんなで一生懸命温かく来てくれた人達をお迎えをしていきたい。そんなことをしながら松川町のファンを作っていきたい。

そして、そうした人達が来てくれることが、今度はお迎えをする私達は「こんど来てもらうにはどうしたらいいんだろう」、「おいしく採れたこのくだものを、もっと違うものに使って、これをいかしてもっともっとPRしてやっていったらどうかな」とか、いろんなアイデアがそうしたことで生まれてきます。

ですから、交流人口ってこういうんですけれども、人がこういうふうに来てくれるこ

とで、今度は私達もまた次のアイデアが湧いてくるかしらん。そうした動きをすることで地域の活性化や地域づくり、観光客の人達が多く来てくれることで、ひいては地域づくりにつながっていくというふうに考えております。ですから、うんとうんと松川町を宣伝していきたいというふうに思っております。

次に、緑を多くということであります。

松川町を訪れてくれている人達のアンケートだとかいろんな調査をしますと、今、片桐議員たちグループがアンケートをみんなで意見を出し合った棒グラフを見せてくれました。1番は自然が豊かだ、緑が非常にきれいだった、空気がおいしかった、小川が非常にきれいだった、これが1番多かったんです。これは、松川町を訪れてくれる多くの皆さんも同じように感じております。

今、およりの森、清流苑の西側にありますけれども、およりの森で、今年は全国植樹祭の長野県が会場だったんですけれども、松川町も会場としてこの飯田下伊那の植樹祭が行われました。100年先の森を目指していこう。100年経った時に、今一生懸命植えている木がきれいに育って、そして、多くの皆さんに楽しんで、癒しの空間としてなっていくくれるように是非ということを進めております。これからも、植樹祭を開催したり、それから里山や森林の整備にもしっかりと力を注いでいきたいというふうにも思っております。

次に、認知症ですね。松川町では、3つの予防。1つが災害予防。それから保健健康予防それと介護予防。3つの予防に力を入れております。

今は、よく小学校6年生の皆さんが認知症ということに目をつけてくれたなというふうに本当に関心するわけでありましてけれども、今、認知症の皆さんが非常に増えている。ということで、日本全国では、認知症のみなさんが262万人いるという統計が出ております。高齢人口、65歳以上の人口の中で、今8.4%の皆さんが認知症になっております。みなさんの身近にも、認知症の皆さんもおられるんじゃないかなというふうに思っております。

松川町でありますけれども、認知症ということで、患者さんは平成27年で、去年でありますけれども246人の皆さんが認知症です。これは、高齢人口、65歳以上が4,195人おりますので、パーセントで言うと5.9%の皆さんが認知症になっているということでございます。

町は、昨年から認知症対策というものに力を入れております。どういうことをしているかということ、去年の9月から、下伊那赤十字病院と、協力をいただきまして、認知症初

期集中支援チームっていうのを立ち上げました。そしてまた、認知症の地域支援推進委員という皆さんもお願いをしました。これは、長野県の中では3番目に早かった。松川町、認知症、これは、下伊那赤十字病院があつたり、担当の保健福祉課の皆さんが、これから認知症をしっかりとやっていかないと駄目だということでいち早く取り組んでくれました。

そして、認知症は早い時期に、治すことができます。あるいは、遅らせることもできます。ですから、早い時期に認知症になるんじゃないかなってこう思う人達が、早くにそうした症状が進まないように薬を飲んだり、あるいはいろんな活動をすることで少しでも遅らせていく。これは、認知症っていうのは、お年寄りになってくると誰しもかかっていく病気の1つでありますのでそんなふう考えております。

また、認知症を抱えている家族の皆さんは非常に大変に苦勞をしております。そんなことで、認知症の家族やすらぎ支援事業っていうのをやったり、あるいは、認知症がひどくなって徘徊をしてしまう。頭が忘れちゃって、道を忘れちゃって、こう歩き回ってしまう。そういった人達にも、徘徊高齢者の家族支援事業というような事業に取り組んでいるところであります。

また、みんなの住んでいるそれぞれの自治会のところへ、担当の保健士の皆さんや担当課の職員が行って、出前講座っていうんですけれども、出向いて、認知症っていうものはどういうものなんだ、どういうふうに予防していくんだっていうような話をしております。

また、認知症には力をいれているということだったんですけれども、今度は、認知症カフェ、認知症の皆さんあるいは本当初期の認知症の皆さんたちが集まって、みんなで話をしたり楽しんだり運動をしたりして、少しでも遅らせていこうという施設を作るといことで28年度予定をいたしております。来年早々には、立ち上げていきたいというふうに思っております。認知症になった人達も、やっぱり人間として認められて、地域の皆さんと一緒に暮らし続けるようなことになればいいなというふうに思っております。

それから、今度は公園やプールということでありました。

松川町には、今都市公園として、むらやま公園、台城公園、藤森公園、松川公園、城山公園、それから松川児童公園、6つあります。町が管理運営をしているということでございます。

子ども達が皆さんが自由に出掛けられる公園が欲しいという言葉は、毎年いただいて

いるかなというふうを受け止めております。皆さんのお家からは若干遠かったり、あるいは子ども達だけで行きづらいところもあるのかなあというふうにも思っております。

ただ、難しいのは、それじゃ公園をどのくらいの規模で、どのくらいの大きさで、どのような内容で作ってあげればいいのかあということと、やはり公園は作りました後知りませんよっていうわけにはいかない。しっかりと、公園の維持管理、草も伸びてきたり、いろんな管理もして、建物、遊具を作れば今度は遊具が古くなっていったり、買い換えたりいろいろしていかにか、そういうことも考えながら、こう全体を考えていかなければならないなというふうに思っております。

ですから、今ある公園をよりみんなが行きやすいように、より楽しめるように持っていくということも考えながらやっていかなくちやならないなというふうにも思っております。

皆さんのお気持ちとしてみると、もっともっと近くに欲しいのかなあという思いも分かりますけれども、町としましては、今ある公園の充実も大切でありますので、そのへんのところをしっかりと加味しながら考えていきたいというふうに思っております。

それから、ミニ公園的な形もひとつの方法かなあ、そんなに大きなものを作るのではなくても対応ができることがあれば、また担当の部署もありますので、検討する余地もあるのかなあというふうに考えております。

以上、5点お答えをいたしました。

○議長（関 克義） 片桐美咲議員、再質問はありますか。

○1番（片桐美咲） ありません。

○議長（関 克義） これに関連いたしまして、皆さまの中で質問のある方は挙手をお願いいたします。

ありませんか。

（挙手なし）

○議長（関 克義） 挙手なしと認めます。

以上で松川北小学校6年、片桐美咲議員の質問を終わります。

◇ 伊 藤 拓 真 ・ 岩 本 聖 ◇

○議長（関 克義） 続いて2番、松川中央小学校6年1組、伊藤拓真議員、岩本聖議員。

○2番（岩本聖） 松川中央小学校6年1組の岩本聖です。伊藤拓真です。

私たちは今年、総合的な学習を中心にほおずきづくりに取り組んできました。この学

習を通して学んだことから提案したいことを発表します。よろしくお願いします。

はじめに、今年ほおずき学習で取り組んだことを発表するのでお聞きください。

6年1組では、最初に農家の宮下さんから食べるほおずきの苗をいただき実際に育てる体験をしました。

まず、畝に穴をあけて水を入れます。そこにほおずきの苗を植えます。茎が伸びてきたらほおずきの周りに4本の棒を立てて、その形に添って黒いテープを張ります。次にほおずきの茎が上に伸びるようにひもを結びつけて引っ張ります。さらに、茎が伸びてくると葉っぱがいっぱいになって栄養が行き渡らなくなるので葉を少しずつ取ります。その後は、ほおずきの皮が茶色になるまで待ちます。ほおずきの皮が茶色になったら収穫します。



ほおずきの栽培は水やりがほとんどなく手間がかかりません。大変だったことは、茎の誘引です。黒いテープのところに茎をひもで結びつけたことです。成長しているので重かったです。

そのほおずきでジャムを作りました。作り方は清流苑の料理長の宮澤さんと、ほおずきの作り方を教えてくれた宮下さんに教えてもらいながら作りました。

○2番(伊藤拓真) まず、ほおずきのへたの部分を切り落としそれを半分に切りました。使った量は、1班で2.1キログラムです。そのほおずきに20%の割合の砂糖400グラムを入れて煮詰めはじめました。それと同時にできたジャムを入れる瓶を沸騰したお湯に入れて煮沸消毒をしました。

しばらくすると、ほおずきがどろどろになっていきました。これで完成です。できたジャムを消毒した瓶に入れてもう一度消毒しました。

できたジャムを家でパンにつけて食べてみると、ほおずきの甘酸っぱい味がとてもおいしかったです。手作りすると、時間がかかるけれどおいしいジャムができました。材料はほおずき、砂糖、ポッカレモンだけで用意するものが少なくて簡単に作れると思いました。

こうした体験から私達はこのほおずきを松川町の特産品として、他の市町村にも販売を広げて、その良さを伝えていってほしいと考えましたが、町のお考えをお聞かせください。

さらに、ほおずきの売り出し方について2つ提案があります。

1つ目は、いろいろなものに加工して売ることです。例えば、グミやクッキーなどがあります。お菓子だけではなく、りんごジュースのようにほおずきジュースも作れると思います。ほおずきそのままからの加工が難しければ、一度ジャムなどにしてからお菓子の生地に練り込んだりすれば作れる商品の幅が広がると思います。

しかし、いくら新商品が開発できてもたくさん売れるとは限りません。そこで2つ目の提案です。ほおずきをモチーフにして、マスコットキャラクターなどをつくってみたらどうでしょうか。これは、ほおずきんちゃんです。こちらは、ほおずきちゃんです。これを文房具のデザインにしてみたらいいと思います。

以上述べてきたように、ほおずきの加工とキャラクター化が実現できれば、ほおずきの売れ筋が伸びると思います。

ご検討よろしく申し上げます。

○議長（関 克義） 深津町長。

○町長（深津 徹） 伊藤議員、岩本議員のご質問にお答えをいたしてまいります。

総合的学習の中で、食用ほおずきに取り組んでいただいたこと、大変にうれしく思いますし感謝を申し上げます。栽培もしてくれて、実際に食べたり、いろんな加工の方法にも研究してくれたということで本当に嬉しく思います。ありがとうございます。

この食べるほおずきですけれども、平成23年に情報があるところから入って、そして、今長野県の中では、富士見町に非常に大きくやっている農家の方がおるということで研究に行って、そこから苗を分けていただいてスタートをした事業であります。

この、食べるほおずきに何で取り組んでみたかということは、今農家の方も高齢化が進んでいる。非常に農作業等が大変だ。そういう中で、ほおずきは、まずひとつには軽いということ。それから当時は比較的消毒だとかいろんな手間がかからないということ。それから、有害鳥獣、猿だとかイノシシだとかあいつのものの被害が少ないということで、食用ほおずきに取り組んでみようということで取り組んだのがほおずき、食用ほおずきです。

それが特産品になってもらえれば、ひとつの方向が出てくるかなということで取り組んでまいりました。今現在は、松川町ほおずき会という会を16人の人達が立ち上げてくれております。そして、その会の皆さん達が、今作っておっていただけます。ほおずきを、今も議員からも提案がありましたように、方々へ宣伝に行ったり売ったりしているのが現状であります。

実際に、食用ほおずきを栽培をいたしました。最初は、一番最初は、無農薬でいける、大丈夫だということで取り組みましたけれども、やっぱり現実っていうのはなかなか厳しくて、初年度も無農薬、全く消毒も何も一切しななんでもっていうわけにはいかなかったというのが現状です。それから、天候不順があったりして収穫する量が減ったり、あるいは良かったり、そういうのが繰り返しております。

今、ほおずき会の皆さんを中心にして、売りだそうということでいろんな商談会に出品したり、出向いて食べるほおずきを試食してもらったり、あるいは加工品を食べてもらったりしています。そして、是非とも増やしていきたいというふうに思っております。

今、現状は、食べるほおずきっていうものがまだまだ世間一般に浸透をしていないというようなこともあったりして、思うようにどんどん売れていくというわけには至っていないというのが現状です。けれども、今、清流苑の食事には、食べるほおずきを出してもらって、そして、食べるほおずきのアイスクリームも売っております。ああいったことで加工をして、しっかりと浸透を図っていききたいなというふうに思っております。

それから、ほおずきを使ったフルーツジュエリーであったり、あるいはお菓子のラスク、それからアイスクリームや、それから今までにもジャムを作ってみたり、ピクルスにしてみたり、様々なことに挑戦をしているのが現状です。町でもほおずき会の皆さんと一緒に、是非ともこれを松川町のひとつの特産物にしていきたいなと、一生懸命頑張っていきたいというふうに思っております。

今、提案のありました、もっともっと一般の人達にも食べるほおずきっていうものになじんでもらうという意味で、家庭菜園にというような提案もございました。いい提案だというふうに思っております。担当課、それからほおずき会の皆さんとも相談をする中で、是非とも少しでもいいので自分たちのちょっとした空いているところ、農地へほおずきを植えてもらって、自分たちが食べてもいいし、非常に珍しいですので、プレゼントしてもいいですし、そういうことをしてほおずき、食べるほおずきというものを少しでも広めていきたいなというふうに思っております。

今、町では、牧之原市だとか、友好姉妹都市の蓮田市だとか、あるいは東京や名古屋で行われるいろんなイベントやお祭りに、ほおずきを持って行って売って、少しでもほおずきっていうものに、食べるほおずきになじんでもらえるようにしているのが現状です。

なお一層、食べるほおずきの普及に努力していきたいというふうに思います。

○議長（関 克義） 伊藤拓真議員、岩本聖議員、再質問はありますか。

○2番（伊藤拓真・岩本聖） ありません。

○議長（関 克義） これに関連しまして、皆さまの中で質問のある方は挙手をお願いいたします。

（挙手なし）

○議長（関 克義） 挙手なしと認めます。

以上で松川中央小学校6年1組伊藤拓真議員、岩本聖議員の質問を終わります。

お諮りいたします。

ここで休憩をとりたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○議長（関 克義） 異議なしと認めます。

それでは、10時40分まで休憩といたします。

休 憩 午前10時29分

再 開 午前10時40分

○議長（関 克義） 時間になりましたので、ミニ議会を再開いたします。

◇ 岩 本 瑞 希・櫻 井 旺 ◇

○議長（関 克義） 続いて3番、松川中央小学校6年2組、岩本瑞樹議員、櫻井旺議員、お願いいたします。

○3番（岩本瑞希） 松川中央小学校6年2組の岩本瑞希です。櫻井旺です。

私達6年2組は、学校での生活を振り返って、自分たちの身近な問題を提案したいと思います。どうぞよろしくお願いします。



私たちの提案は、松川町の小中学校の全教室へのエアコンの設置です。

私たちの通う松川中央小学校には、保健室やパソコン室などにエアコンが設置されています。普通教室では、6年生の教室にだけエアコンが設置されています。そのため、今年初めてエアコンがある教室で過ごしました。その時感じたことをまず話します。

エアコンがあると、気温が35℃を超えるような暑い日でも、涼しいため授業に集中

することができます。

体育で組み体操などの運動会の練習を暑い中全力でやり、汗を掻いても教室が快適な温度になっているため熱中症になる可能性も低くなると思います。そして、快適な教室があることで、一生懸命に体育に取り組むことができます。逆に教室が暑いと、体育の後の授業などは特に集中することが難しいです。

エアコンがない教室では扇風機を使いますが、教室も30℃を超えるので、風が暖まっています。それに、風が当たる席と当たらない席があります。

○3番（櫻井旺） 次に長野県の学校のエアコン設置について、クラスでいろいろと調べてみたことを話します。

すると、長野県のエアコン設置率は他の県よりもはるかに低いということがわかりました。公立学校のエアコン設置率は、全国平均で32.8%だったのに対し、長野県はわずか3.7%でした。長野県は全国で4番目に低い設置率でした。ちなみに北海道と東北の県を除けば、一番設置率が低い県となっています。

ある地域では、快適な環境で授業が受けられるのに対し、ある地域では教室にいても暑くて苦しいというつらい状況があります。そのつらい状況が、長野県にはあるのです。

私たちの住む長野県の真夏は、それほど涼しいというわけではありません。加えて、長野県の夏休みは比較的短いので、他の県よりも暑い時期に長く学校で生活していきます。それなのに、エアコンの設置率が低いのはとても残念です。

○3番（岩本瑞希） 私たちは今年の夏、エアコンがある教室で過ごしてみて、エアコンがあると夏の暑い日でも集中でき落ち着いて授業を受けることができたと感じます。もし、松川町の小中学校の全教室にエアコンを設置してもらえたなら、もっといい環境の中で勉強ができて、学力も身に付くのではないかと考えています。暑い夏でも一生懸命に頑張っています。エアコンがある環境になればもっと頑張れると思います。

○3番（櫻井旺） 是非、松川町の小中学校の全教室にエアコンを設置していただくよう検討していただけないでしょうか。

ご検討よろしく申し上げます。

○議長（関 克義） 深津町長。

○町長（深津 徹） 岩本議員、櫻井議員のご質問にお答えをいたしてまいります。

小中学校全教室にエアコンをという提案でございます。

松川町の今保育園それから小中学校の現状でありますけれども、児童館には民間の方

からのご寄付によってエアコンがついたところでもあります。保育園は、今、名子中央保育園、それから上片桐保育園の相談室、給食室についております。中学校は特別教室でございます。それから、北小学校は特別教室と、今度改築しました相談室についています。中央小学校におきましては、特別教室、それから北校舎、今6年生の校舎でありますけれども、6年生の校舎とそれから新しくなった給食棟についているのが現状であります。

昨今、地球の温暖化ということで、夏が非常に暑くなってきております。そうした中で、先ほど長野県の現状も調べてくれたようでございますけれども、統計年度が違うのかな、26年度の4月1日現在の資料を私は今手元にありますけれども、小中学校では、長野県では7.5%。全国では非常に低い、全国平均では29.9%ということですので、長野県は非常にエアコンがついていないということ。それから、保育園になりますと、今度は長野県の%では、長野県は0%、いくつかはついているんだらうけれども数字には表れてこないということで、全国の平均ではどうかなというふうに見ますと、保育園は41.3%ということが現状でございます。

長野県、どうして長野県はこんなについでいないのかなということなんですけれども、今度は、平均気温を見ると、長野県の1年間の平均気温は12.6度であるというようなこと、全国でなると42番目に、まだまだ低い、平均気温が42番目ということ。それから、月の最高気温、一番高い温度がどうかなあというふうに見ると、長野県は、33.1℃ということで、全国では33番ということ。ただ、この計る場所にもよります。おそらくは、これは室内ではなくて、今の数字の何度っていうのは、外気温だというふうに思いますので、今度は皆さん方みたいに教室で勉強したりしていると、日がどんどん、どんどん照ってきてもっともっと、35度前後に近い温度になるのではなかろうかなというふうに思っております。

松川町では、子育て支援ということで、皆さんが学校で安心して安全で勉強ができる環境を整えていこうということで、なかなかいっぺんにすべてというわけにはいかないんですけれども力を入れているのも事実でございます。

そうした中で、今回エアコンということで、これにつきましては、お父さんお母さん方からも話も聞いておりますし議会の中でも出たりしております。なかなかすべてということになりますと、改築に、建てる時に合わせて作るのとは違いまして、今度はエアコンだけを取り付けるという、非常に大きな予算がかかっていくわけでございます。

今、皆さん達が一番安全安心の中で勉強にしっかりと力が注げれるのに、こういった

ものがいいのか、他に何かないのかというようなことも考えながらやっていきたいというふうに思っております。

しかしながら、最近の熱さの状況等を踏まえますと、やっぱり考えていかなければならない大きなテーマでございます。今、町は、教育委員会を中心にして検討をいたしております。松川町では、さっき言ったように保育園、小学校、中学校とあります。やはり、夏休みがほとんどない保育園もあります。お昼寝をしなくちゃというようなことで、そういったことも体力的なことも考えていかななくてはなりませんので、エアコンについて、前向きに検討を今もいたしておりますけれども、順次、考えてまいりたいというふうに思っております。

学習環境をより向上させるためには、様々な事柄があります。それに取り組んでいかなければならないということでもありますので、そんなことも計画的に進めてまいりますので、またご理解をいただきたいというふうに思います。

よろしく申し上げます。

○議長（関 克義） 岩本瑞希議員、櫻井旺議員、再質問はありますか。

○3番（岩本瑞希・櫻井旺） ありません。

○議長（関 克義） これに関連して、皆さんの中で質問のある方は挙手をお願いいたします。

（挙手なし）

○議長（関 克義） 挙手なしと認めます。

以上で松川中央小学校6年2組、岩本瑞希議員、櫻井旺議員の質問を終わります。

◇ 橋 場 郁 遥・佐 藤 響 己 ◇

○議長（関 克義） 続いて4番、松川中央小学校6年3組、橋場郁遥議員、佐藤響己議員。お願いします。

○4番（橋場郁遥） 松川中央小学校6年3組の橋場郁遥です。

○4番（佐藤響己） 僕は副ルーム長の佐藤響己です。

○4番（橋場郁遥） 今日、松川中央小学校6年3組を代表して、私たちが参加することのできる町づくりについて発表させていただきます。

○4番（佐藤響己） 松川町の町政60周年、そして昨年度東小も一緒になった中央小の50周年の節目の今年、私たちは、6年間の小学校生活を終えていよいよこの中央小学校を卒業します。

中央小学校は、校舎も校庭も大変広く、入学以来、あちこちでよく学びよく遊んでき



ました。校庭はとても水捌けが良く、今年の運動会前に雨が降ってもすぐにからっとして走り回ることができ、本当に環境に恵まれた学校だと思っています。

私たちの念願であった中庭工事にも、その整備の検討を進めていただきありがとうございます。

○4番(橋場郁遥) 今年、私たち6年3組は、お世話になった学校に感謝の気持ちを残したいと考え、中庭で利用してもらえるように、卒業記念と学校の50周年を記念して親子でベンチを6つ作りました。外での利用に耐えられるように、防水の塗装もしてありますが、雨よけの屋根がついた小屋などが建つと嬉しいです。

下級生やこれから入学してくる松川子ども達だけでなく、地域の保育園の皆さんや、さらには町の施設を利用されているお年寄りの皆さんにも利用してもらって、中庭が散歩にこられる憩いの場所になるといいなあと思っています。

京都市立京都大池中学校は、学校を複合施設として利用し、同じ校舎に保育所やデイサービスセンターもあると聞きます。都会の限られた敷地だからこそという理由もあるかもしれませんが、日常生活の中で様々な年代と一緒に生活できる環境はすごいと思います。

中央小の中庭が、地域の方にも開かれた場所になっていくことで、私たちも地域の皆さんと仲良くなり町の一員としても気持ちが増していく気がします。

小学校の事業日、日中に気軽に利用できるような憩いの場所にすることは可能でしょうか。散歩に来てもらったりお話をしたりすることのできる交流の場になっていくことを願います。

○4番(佐藤響己) また、小学校前の道路にある地下道の絵は、保護者の中で描いたという方がいると聞きました。こうした取組がどのような経緯で実現したのか、また、どんな手続きが必要なのか、教えていただければありがたいです。

また、私たちが作成した今回のベンチのようなものを、町の公園や公共施設に設置することは可能なのか教えていただけるとありがたいです。

町のためにできることを具体的に教えていただければ、学校の総合的な学習の時間などでアイデアを出して考えていきたいと思っています。

○4番(橋場郁遥) 以上のことについて、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

○議長(関 克義) 深津町長。

○町長(深津 徹) 橋場議員、佐藤議員のご質問にお答えをいたしてまいります。

中庭の整備についてでございます。

これにつきましては、昨年のやはりミニ議会の中で提案をいたしました。その時に、私が答弁したことをお答えいたしますと、体育館や運動場の他に、休み時間に皆さんがほっと休めて安らぎを感じられる場所があってもいいのではないかと。どのような中庭があったらいいのか。中央小学校の児童の皆さん是非考えて提案をして欲しいというふうにご答弁をいたしました。

その後、議会の皆さんにもこの事業、素晴らしい事業だという思いの中で、1回見に行っております。そうした中ではやはり、今樹木が生い茂ったり、あるいは岩や様々な石が置いてあったり、危ないような場所もあったりというようなことを感じてきたところであります。

昨年、この提案をいただきまして、そして、これがまさに皆さん達が考えて提案をし、これも学習の一貫ではないかなあというふうにご痛感をしたところでございます。

提案も、いただいてきております。それらを再度検討をする中で、この事業、進めてまいりたいというふうにご思っております。

ただ、残念な、大変に申し訳ないというふうにご思うのは、今の6年生が計画してすぐできたというわけにもまいりません。昨年の6年生の皆さんも提案をしてくれております。時間がかかっていること大変に申し訳ないというふうにも思っておりますけれども、皆さんの提案を必ず活かしていきたいというふうにご前へ進めてまいります。

卒業されてから完成ということもあり得るかというふうにご思いますけれども、後輩のみなさんたち、これから中央小へ入ってくる皆さん達のために、自分たちが提案したことがそうして身になっていったということでごご容赦願いたいというふうにも思っております。

また、6年3組の皆さんは、ベンチを作っていただいたということでごございます。中庭に利用してほしいという思いの中で作っていただいたということでありましたので、活かしてまいりたいというふうにご思っております。

それから、学校の正面にごございます地下道について触れておきます。ご質問がございました。

あそこにある壁画は、平成2年に長野県の歩行者空間オアシス整備という事業で、県

のほうから補助金をもらって南側の壁は中央小学校、北側の壁は中学生が担当して、利用して、児童の皆さん全員が参加して完成したものでございます。20年以上経って、今、だいぶこう見にくくなっております。

これも、非常に今、皆さん方からも、自分たちも町のそうしたものに参加をしていきたいという意欲のもとでご提案をいただいております。大変に埃をかぶって見にくくなってたりしております。この事業については、しっかり担当課のほうで進めてまいりたいというふうにも思っております。是非ともまた、皆さん方にもそうした意味で町政に参加をしてもらいたいというふうに思っております。

こうした機会を通じて、皆さん達もこういうふうに関心やご意見や提案をしていただけるということは非常に大きな出来事であり、町の行政にも皆さん達が参加をしているというふうに捉えております。大切に意見を活かしてまいりたいというふうに思っております。

是非ともまた、町づくりということで、皆さん達のお父さんたちを通じてでもいいですし、学校の先生たちを通じてでもいいですし、また、児童会を通じて町づくりに皆さんも声を上げていってほしいなというふうに願う次第でございます。

○議長（関 克義） 橋場郁遥議員、佐藤響己議員、再質問ありませんか。

○4番（橋場郁遥、佐藤響己） ありません。

○議長（関 克義） これに関連しまして、皆さんの中で質問のある方は挙手をお願いいたします。

（挙手なし）

○議長（関 克義） 挙手なしと認めます。

以上で松川中央小学校6年3組、橋場郁遥議員、佐藤響己議員の質問を終わります。

通告のありました一般質問は以上であります。

=== 日程第3 町長あいさつ ===

○議長（関 克義） 日程第3、町長あいさつであります。

深津町長、お願いします。

○町長（深津 徹） 限られた時間ではありましたが、皆さんにとっては長時間というふうに関心されたのではなかろうかなというふうに思っております。大変緊張の中、出席いただいて議会に様々な提案をいただきましたこと、心より感謝を申し上げる次第でございます。

皆さん方のそれぞれのご意見は、非常に純粋であり、率直であり、そしてまた堂々と自分たちの考えを述べられている姿には本当に敬服する次第でございます。出されましてご意見しっかりと受け止めて、今日はそれぞれの担当している課の課長たちも出席をいたしております。これからに向けて、今出された意見、何が町としてできるかしっかりと考えて進めてまいりたいというふうに思っております。

これから、将来に向けて、この飯田下伊那地方は、リニア新幹線あるいは三遠南信自動車道と、また全く違った新たな社会を迎えるわけでございます。そして、皆さん方が、10年後、20年後、30年後、この松川町を支えていく皆さんであります。

今、そんなに難しく考えなくてもいいです。しかしながら、やはりこうあってほしいな、こんな町に住んでみたいな、こういうふうにするべきじゃないのかな、そういったことは、それぞれの皆さんしっかりと考えてほしい。まず考えること。

それが実現する、しない、これはなかなかいろんな難しい問題がありますけれども、自分たち自身が、こんな町であってほしいな、こんな町に住みたいな、将来松川町を一旦離れてもまた帰ってきたいな、そんな夢や考えというのは、是非とも持ち続けていただきたいというふうに思う次第でございます。

是非とも、そうしたもので、夢を持って進んでほしい。松川町も、ひとりひとりが輝いて、笑顔あふれる町を目指してまいります。皆さんのお力添えっていうのは、非常に大きなものがございます。是非とも、そんな町を目指してまいります。是非とも皆さんのまた日頃の中でのご意見等聞かせてください。

本日は大変にありがとうございました。私どもも、きちっと真摯に受け止めてまいります。

ありがとうございました。

○議長（関 克義） 以上をもちまして、本日の会議は終了しました。

閉 会

○議長（関 克義） これにて閉会といたします。

閉 会 午前10時59分